

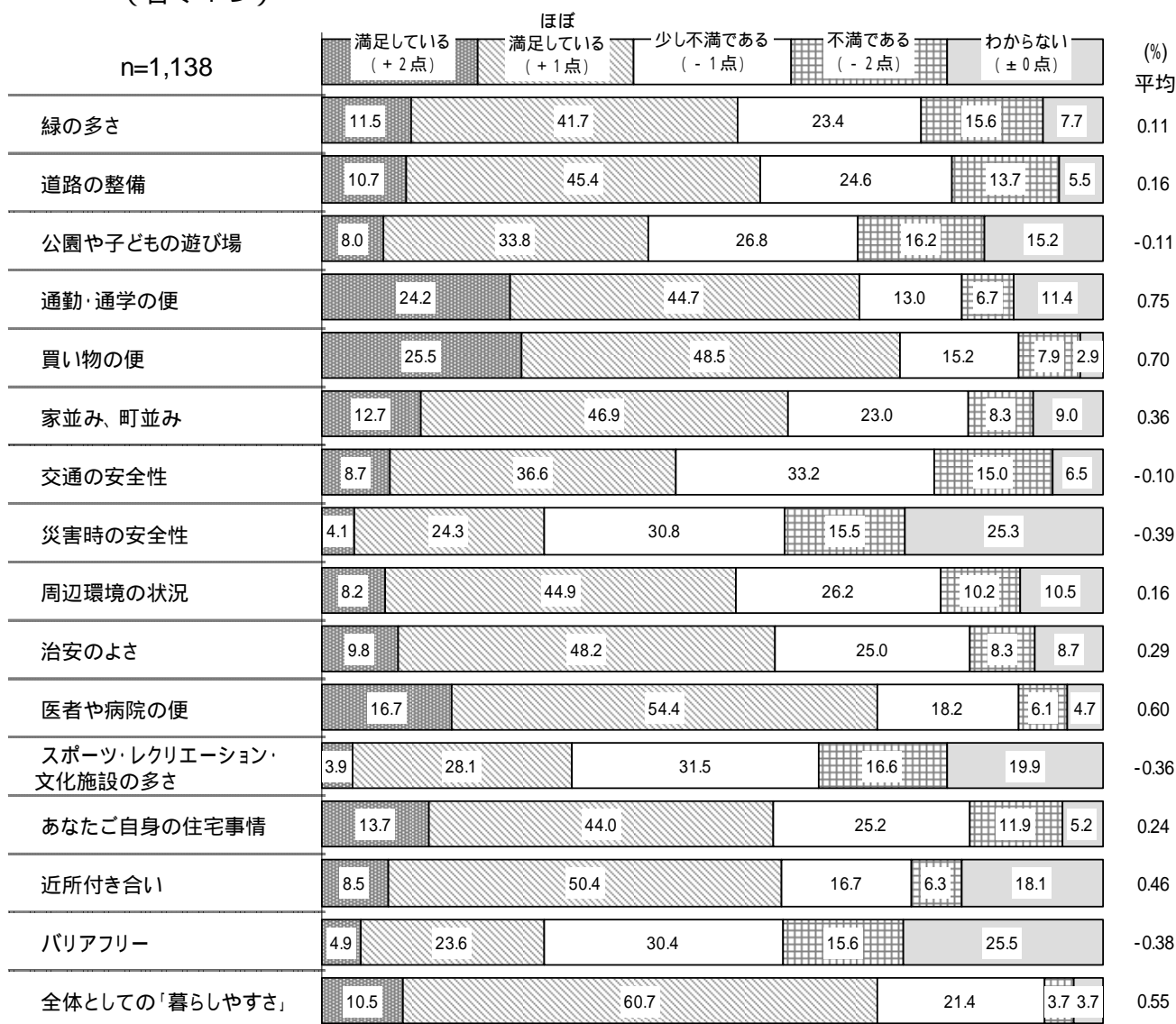
5. 生活環境の満足度

(1) 生活環境の満足度

(全員の方に)

問10. あなたは、お住まいの地域の生活環境について、どの程度満足していますか。

(各々1つ)



- ・ 全体で見ると、総合満足度といえる「全体としての「暮らしやすさ」」については、「満足している」(10.5%)と「ほぼ満足している」(60.7%)を合わせた『満足(計)』(71.2%)が7割近くとなっている。個別の15項目についてみると、『満足(計)』は、＜買い物の便＞が7割半ばと最も高く、＜医者や病院の便＞と＜通勤・通学の便＞も約7割と高くなっている。「少し不満である」と「不満である」を合わせた『不満(計)』は、＜交通の安全性＞、＜スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ＞、＜災害時の安全性＞、＜バリアフリー＞、＜公園や子どもの遊び場＞で4割を超えている。

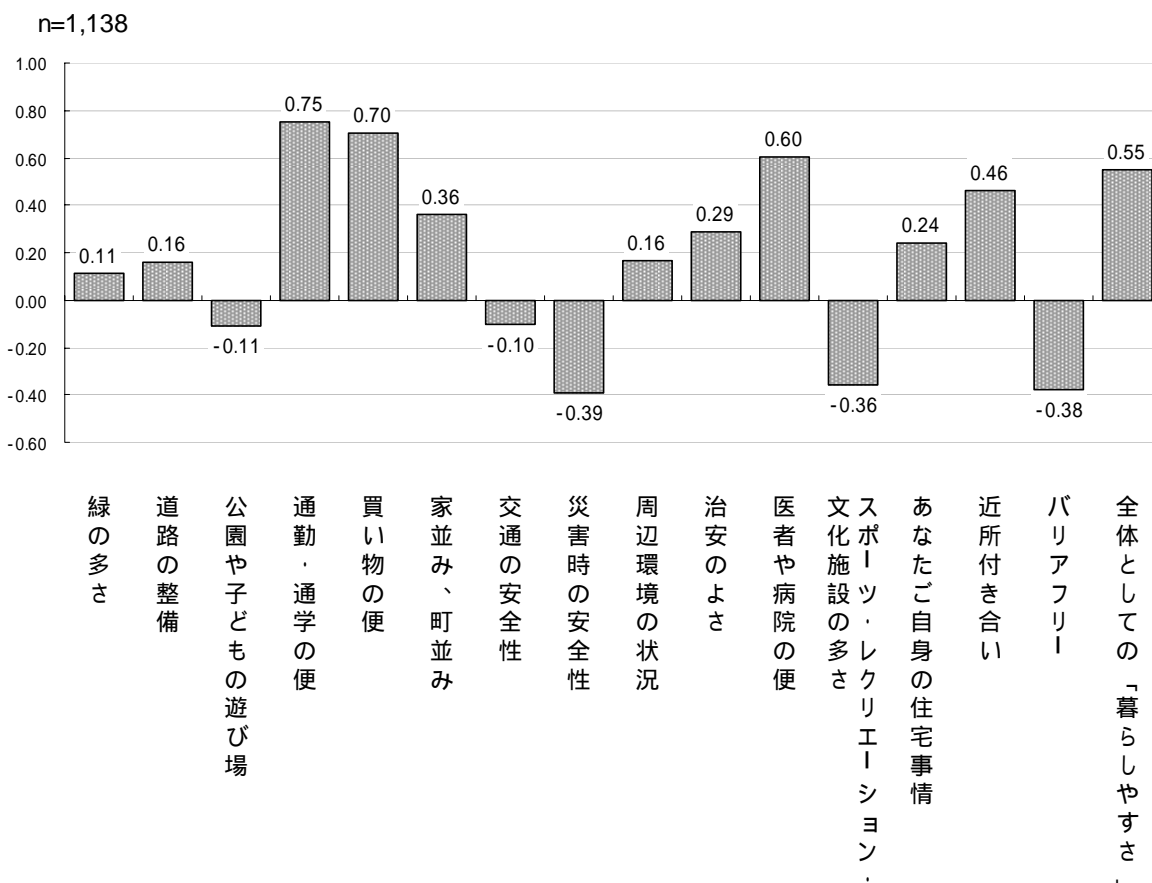
16項目にわたる生活環境評価の比較をしやすいするため、それぞれの回答を点数化し、下記の計算式で各項目の評価点を求めた。

$$\text{評価点} = \frac{\text{「満足している」} \times 2 + \text{「ほぼ満足している」} \times 1 + \text{「少し不満である」} \times (-1) + \text{「不満である」} \times (-2)}{\text{回答者数}}$$

この計算によると、評価点は-2.00から+2.00の間に分布し、0.00が中間値で、+2.00に近いほど評価が高く、-2.00に近いほど評価が低いことになる。また、「わからない」は計算から除外した。

16項目の生活環境評価を評価点でみると、個別の15項目のうち評価が高いのは、＜通勤・通学の便＞（0.75）、＜買い物の便＞（0.70）、＜医者や病院の便＞（0.60）、＜近所付き合い＞（0.46）などの順となっている。一方、評価が低いのは、＜災害時の安全性＞（-0.39）、＜バリアフリー＞（-0.38）、＜スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ＞（-0.36）などの順となっている。

[生活環境の満足度（評価点）]

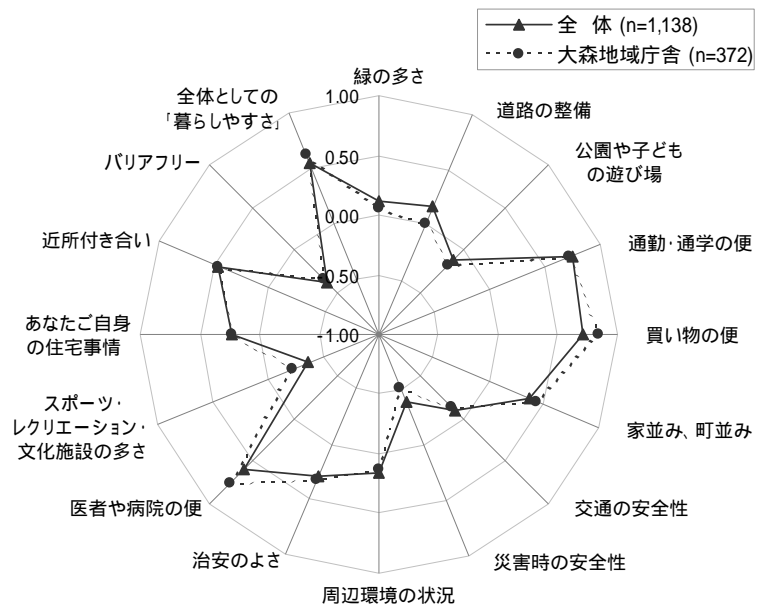


以下、生活環境評価の評価点を地域庁舎管内別にみる。管内ごとに、全体平均と比べて評価の高いベスト3の項目と、評価の低いワースト3の項目を表に掲げた。

【大森地域庁舎管内】

平均との差	1位	2位	3位
ベスト3	スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ 0.15	医者や病院の便 0.14	買い物の便 0.13
ワースト3	道路の整備 -0.14	災害時の安全性 -0.13	公園や子どもの遊び場 -0.06

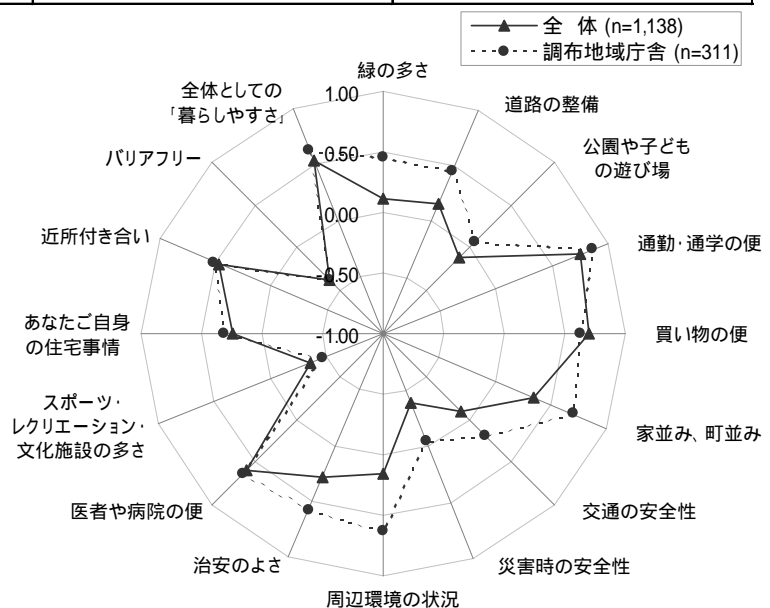
- 他の管内に比べ、全体平均と大きな差がある項目は少ない。全体平均との比較では、＜道路の整備＞が0.14ポイント、＜災害時の安全性＞が0.13ポイント、＜公園や子どもの遊び場＞が0.06ポイント下回っている。



【調布地域庁舎管内】

平均との差	1位	2位	3位
ベスト3	周辺環境の状況 0.46	災害時の安全性 0.35	緑の多さ 0.35
ワースト3	スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ -0.10	買い物の便 -0.08	バリアフリー 0.01

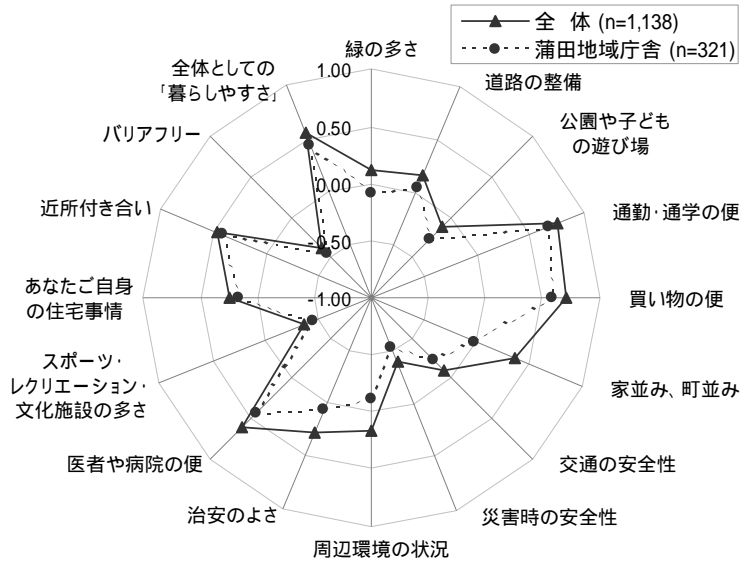
- 全体平均よりも評価の高い項目が多く、特に評価が高いのは＜周辺環境の状況＞、＜災害時の安全性＞、＜緑の多さ＞、＜家並み、町並み＞の4項目で、全体平均を0.3ポイント以上上回っている。一方、＜スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ＞＜買い物の便＞は全体平均より約0.1ポイント下回っている。



【蒲田地域庁舎管内】

平均との差	1位	2位	3位
ベスト3	近所付き合い -0.05	あなたご自身の住宅事情 -0.07	バリアフリー -0.07
ワースト3	家並み、町並み -0.38	周辺環境の状況 -0.29	治安のよさ -0.24

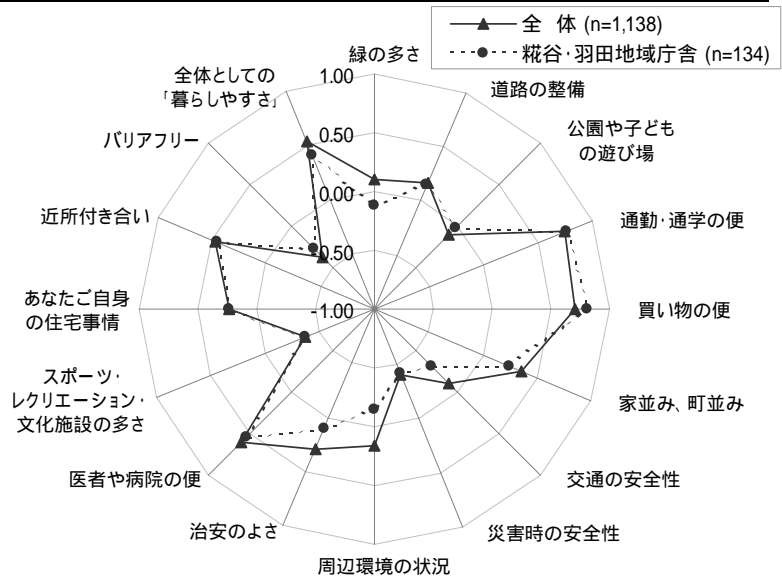
- すべての項目で全体平均を下回っており、特に<家並み、町並み>、<周辺環境の状況>、<治安のよさ>は0.2ポイント以上の差を付けて下回っている。



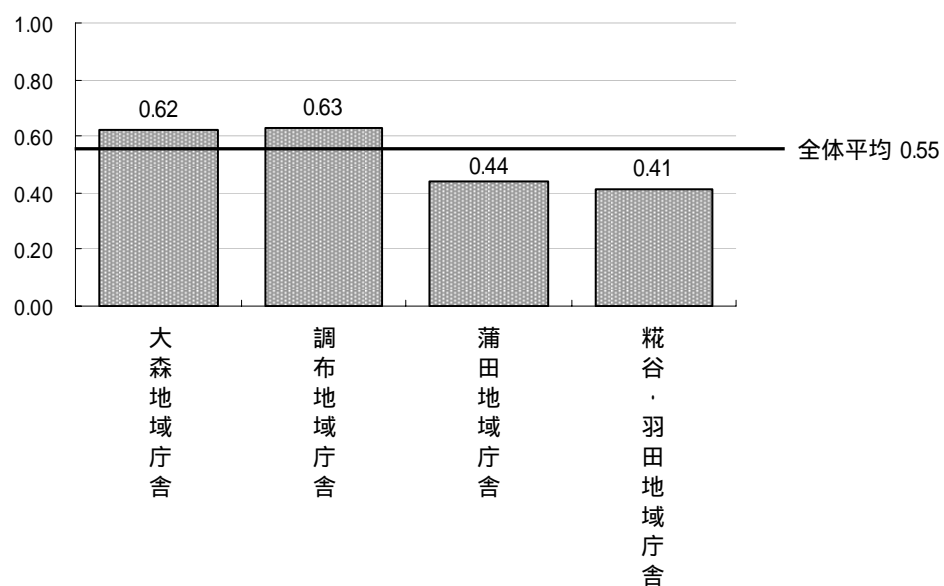
【糺谷・羽田地域庁舎管内】

平均との差	1位	2位	3位
ベスト3	買い物の便 0.11	公園や子どもの遊び場 0.10	バリアフリー 0.09
ワースト3	周辺環境の状況 -0.31	緑の多さ -0.22	交通の安全性 -0.22

- 全体平均と同程度もしくはそれよりも評価の低い項目が多い。<周辺環境の状況>、<緑の多さ>、<交通の安全性>では全体平均を0.2ポイント以上の差をつけて下回っている。



[生活環境の満足度（全体としての「暮らしやすさ」） - 地域庁舎管内別]



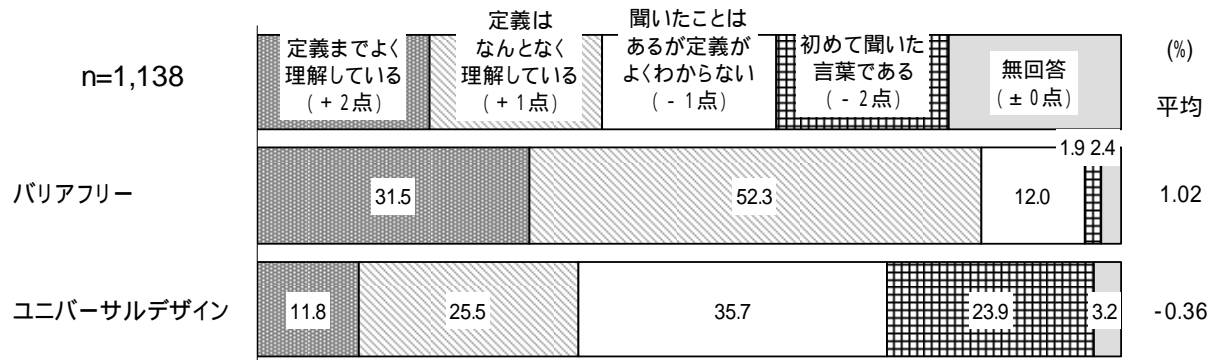
- ・ 総合満足度を示す「全体としての『暮らしやすさ』」を地域庁舎管内別にみると、調布地域庁舎管内と大森地域庁舎管内が全体平均を上回る満足度であり、次いで、蒲田地域庁舎管内と糀谷・羽田地域庁舎管内の順となっている。

(2)「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」の認知度

(全員の方に)

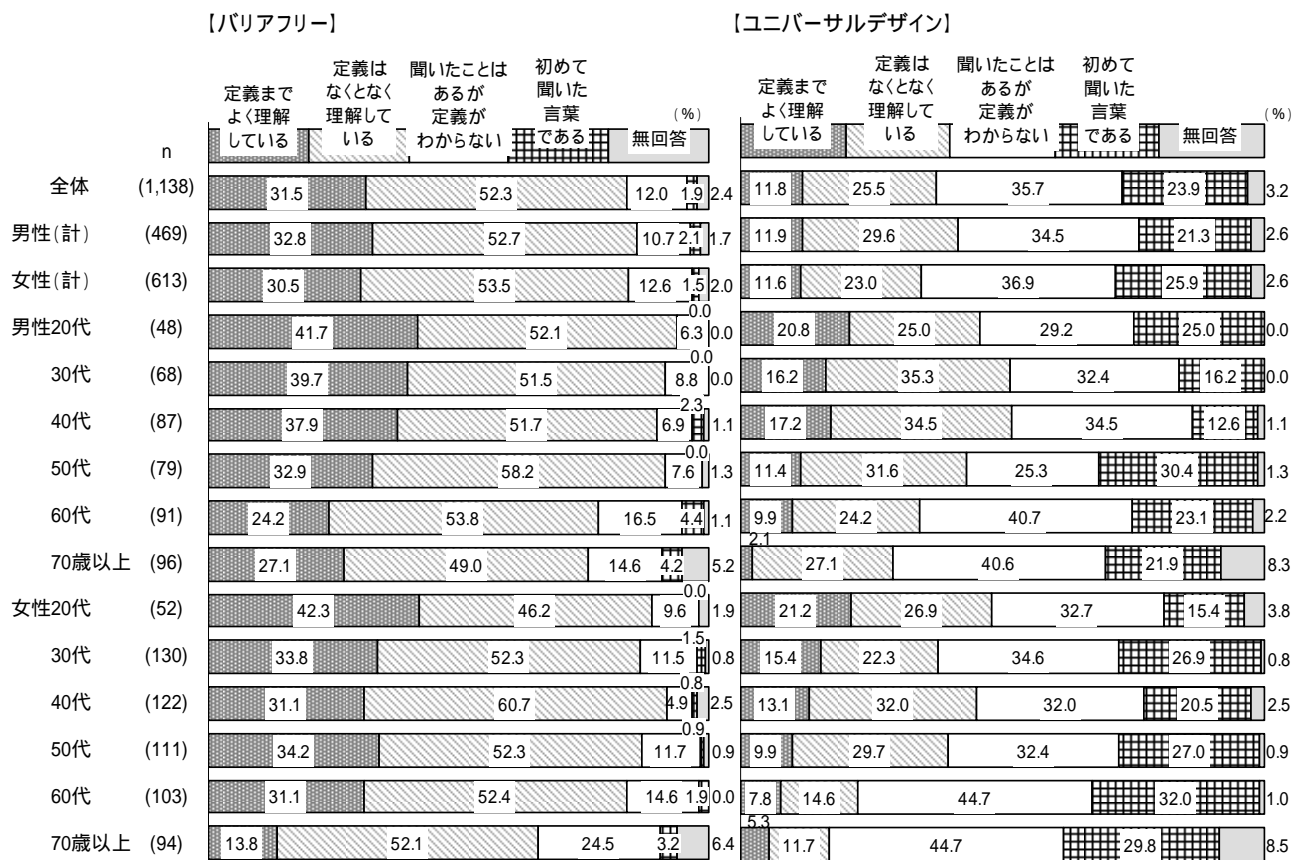
問 11. あなたは「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」という言葉をご存知でしたか。

(各々1つ)



- 全体でみると、「バリアフリー」については、「定義までよく理解している」(31.5%)と「定義はなんとなく理解している」(52.3%)を合わせた『理解している(計)』(83.8%)は8割以上となっており、高い認知度を示している。一方、「ユニバーサルデザイン」については、『理解している(計)』(37.3%)でも4割弱であり、半数以上に認知されていない。

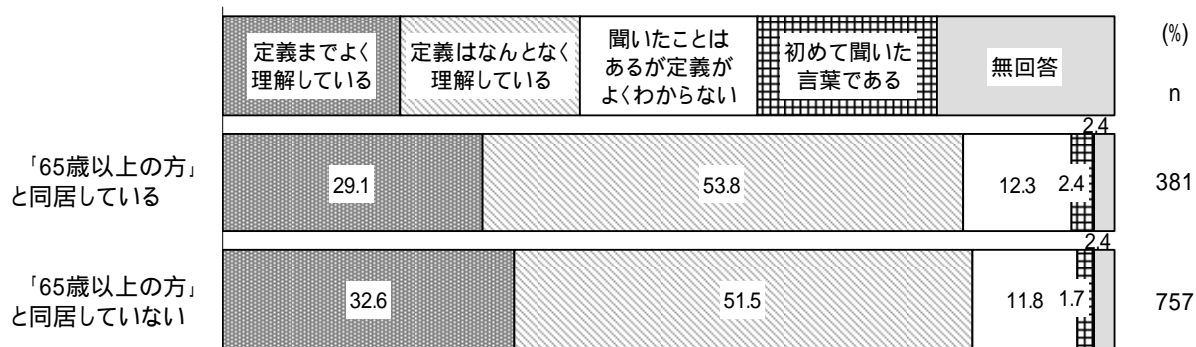
【「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」の認知度 - 性 / 年代別】



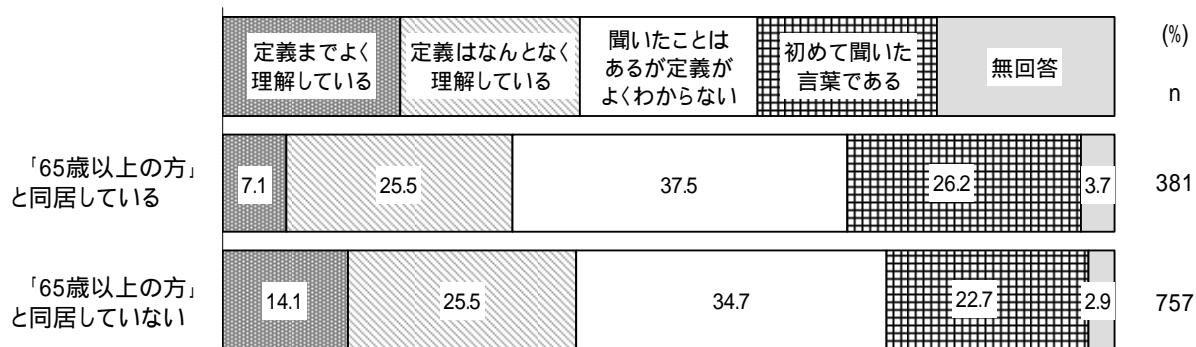
- ・ 「バリアフリー」について性別にみると、「定義までよく理解している」と「定義はなんとなく理解している」を合わせた『理解している(計)』はいずれも8割以上であり、男女共に広く認知されていることが分かる。
- ・ 「バリアフリー」について年代別にみると、どの世代でも高い認知率を示しているが、特に50代以下の『理解している(計)』は8割半ば～9割強と高くなっている。
- ・ 「ユニバーサルデザイン」を性別にみると、『理解している(計)』は男性で41.5%、女性で34.6%であり、男性における認知率の方がやや高くなっている。
- ・ 「ユニバーサルデザイン」について年代別にみると、若い世代ほど認知度が高い傾向がある。

【「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」の認知度 - 65歳以上の方との同居の有無別】

【バリアフリー】



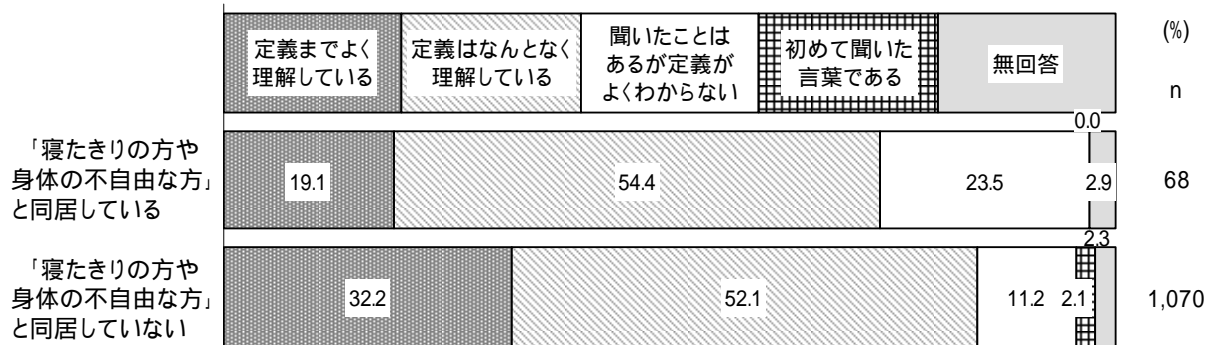
【ユニバーサルデザイン】



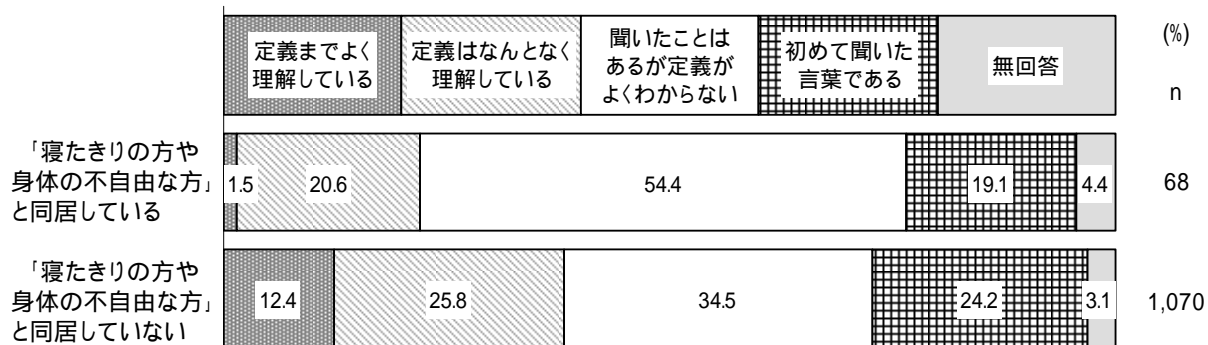
- ・ 「バリアフリー」については、65歳以上の方との同居の有無ではあまり差がないことが分かる。
- ・ 一方、「ユニバーサルデザイン」についてみると、「定義までよく理解している」と「定義はなんとなく理解している」を合わせた『理解している(計)』は、65歳以上の方と同居している方(32.6%)よりも同居していない方(39.6%)のほうが7.0ポイント高くなっている。

【「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」の認知度
- 寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別】

【バリアフリー】



【ユニバーサルデザイン】

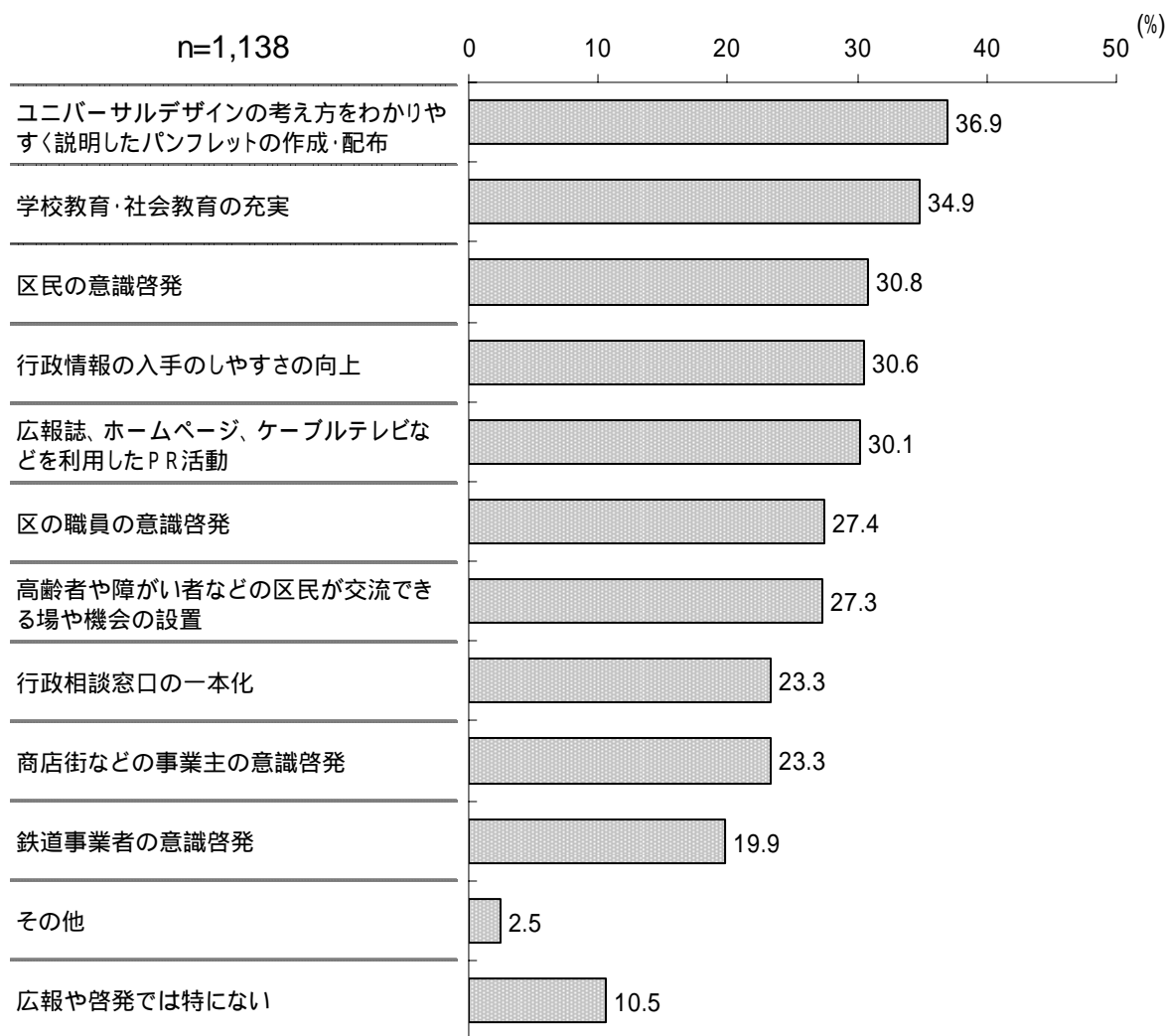


- ・ 「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」のいずれについても、寝たきりの方や身体の不自由な方と同居していない人のほうが認知度が高い。

(3) バリアフリーの視点で進めるまちづくりに関して広報や啓発活動で必要だと思う
取り組み

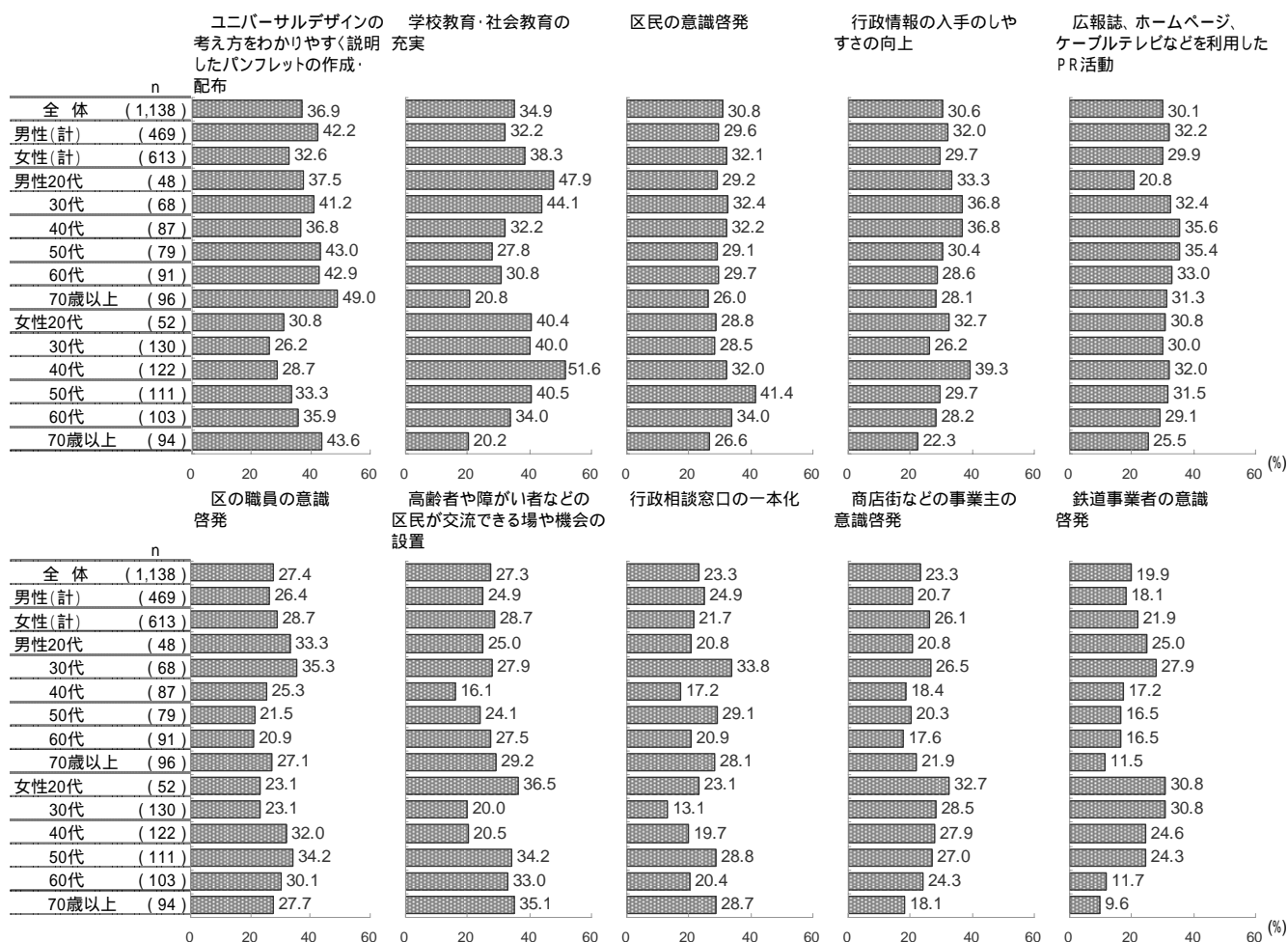
(全員の方に)

問 12. バリアフリーやユニバーサルデザインの視点でまちづくりを進めるにあたり、広報や啓発活動で区としてどのような取り組みが必要だと思いますか。(いくつでも)



- 全体でみると、最も高いのは「ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布」で 36.9%、次いで、「学校教育・社会教育の充実」(34.9%)、「区民の意識啓発」(30.8%)、「行政情報の入手のしやすさの向上」(30.6%)、「広報誌、ホームページ、ケーブルテレビなどを利用したPR活動」(30.1%)の順となっている。

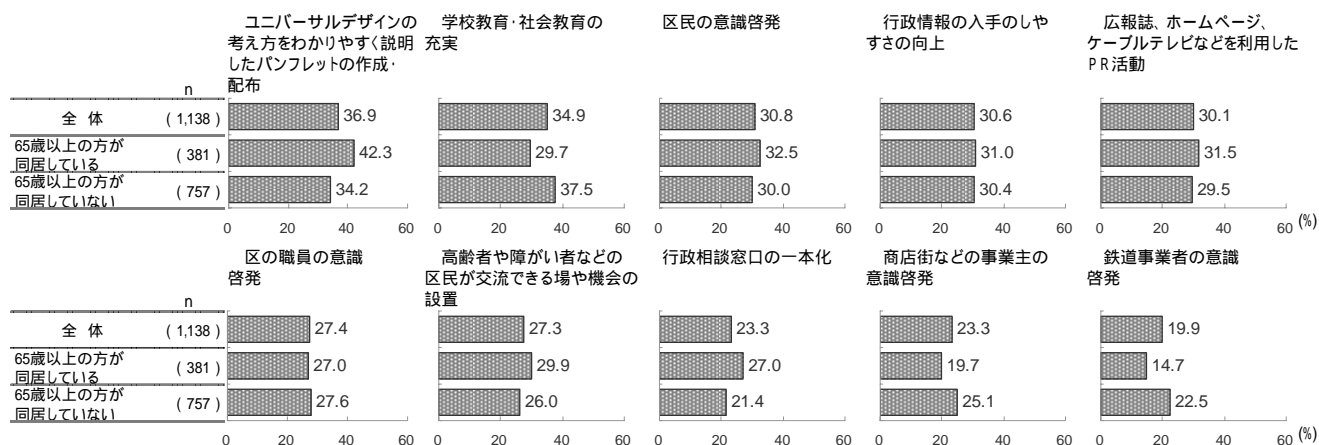
〔バリアフリーの視点で進めるまちづくりに関して広報や啓発活動で必要だと思う取り組み
- 性 / 年代別 〕



- ・性別にみると、男性で最も高いのは「ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布」(42.2%)であり、次いで「学校教育・社会教育の充実」「広報誌、ホームページ、ケーブルテレビなどを利用したPR活動」(共に32.2%)と続いている。
- ・女性で最も高いのは「学校教育・社会教育の充実」(38.3%)であり、次いで「ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布」(32.6%)、「区民の意識啓発」(32.1%)の順となっている。
- ・年代別にみると、20代・30代では「学校教育・社会教育の充実」が最も高いのに対し、60代・70代では「ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布」が最も高くなっている。

[バリアフリーの視点で進めるまちづくりに関して広報や啓発活動で必要だと思う取り組み

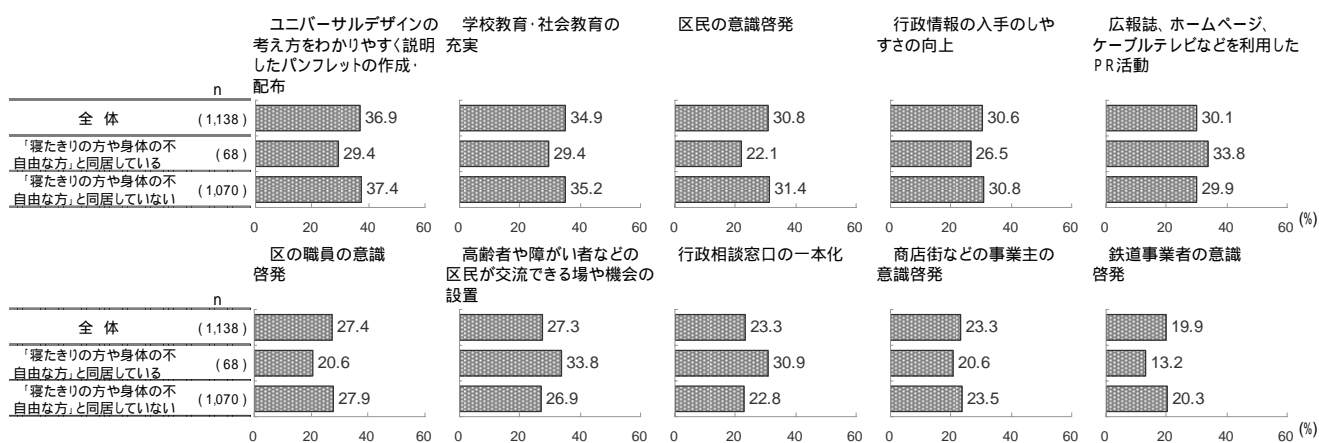
- 65歳以上の方との同居の有無別]



- ・ 65歳以上の方と同居している人で、最も高かったのは「ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布」(42.3%)で、4割以上を占めている。
- ・ 65歳以上の方と同居している人の回答の中で、平均よりも高めだったのは「ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布」(+5.4ポイント)、「行政相談窓口の一本化」(+3.7ポイント)、「高齢者や障がい者などの区民が交流できる場や機会の設置」(+2.6ポイント)などの項目となっている。

[バリアフリーの視点で進めるまちづくりに関して広報や啓発活動で必要だと思う取り組み

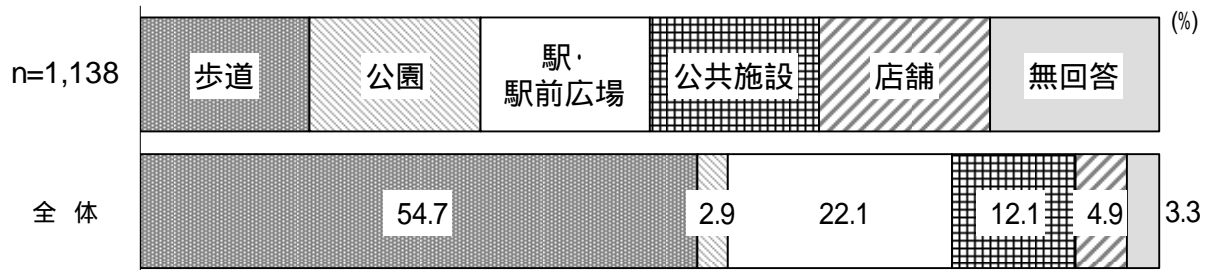
- 寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別]



- ・ 寝たきりの方や身体の不自由な方と同居している人で、最も高かったのは「広報誌、ホームページ、ケーブルテレビなどを利用したPR活動」「高齢者や障がい者などの区民が交流できる場や機会の設置」で共に33.8%。
- ・ 寝たきりの方や身体の不自由な方と同居している人の回答の中では、「行政相談窓口の一本化」(+7.6ポイント)、「高齢者や障がい者などの区民が交流できる場や機会の設置」(+6.5ポイント)、「広報誌、ホームページ、ケーブルテレビなどを利用したPR活動」(+3.7ポイント)などが全体平均よりも高い項目となっている。

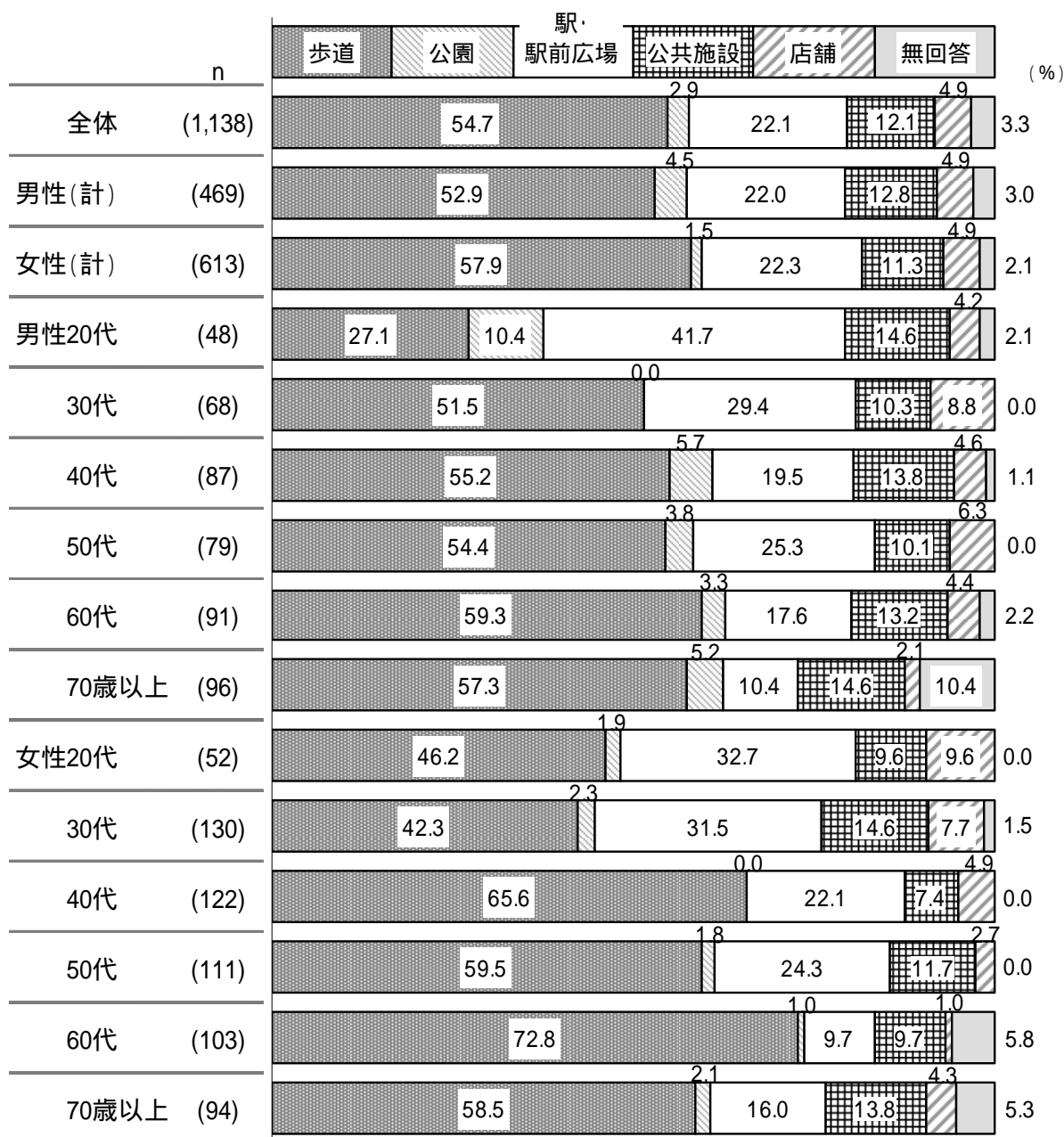
(4) バリアフリーの視点で進めるまちづくりに関して特に整備すべき場所
(全員の方に)

問 13. バリアフリーやユニバーサルデザインの視点でまちづくりを進めるにあたり、区として、より力を入れて整備すべき場所は、どのような場所だと思いますか。(1つだけ)



- ・ 全体で見ると、「歩道」が54.7%で半数以上を占めており最も高い割合となっている。次いで、「駅・駅前広場」(22.1%)、「公共施設」(12.1%)の順が続いている。

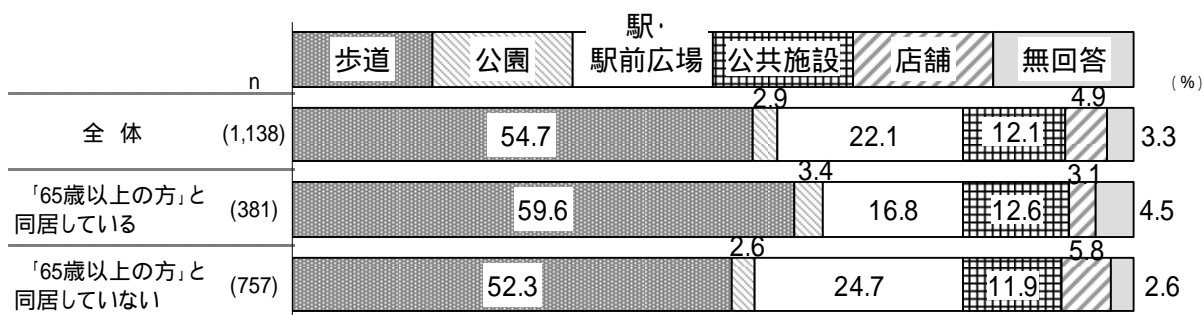
[バリアフリーの視点で進めるまちづくりに関して特に整備すべき場所 - 性 / 年代別]



- ・ 性別にみると、「歩道」は男性よりも女性のほうが5.0ポイント高くなっている。
- ・ 年代別にみると、20代～30代の若い世代では、「駅・駅前広場」が約3割～4割であり、他の年代よりも高い割合となっている。一方、40代以上の世代では、「歩道」が5割半ば～7割で半数以上を占めている。

[バリアフリーの視点で進めるまちづくりに関して特に整備すべき場所

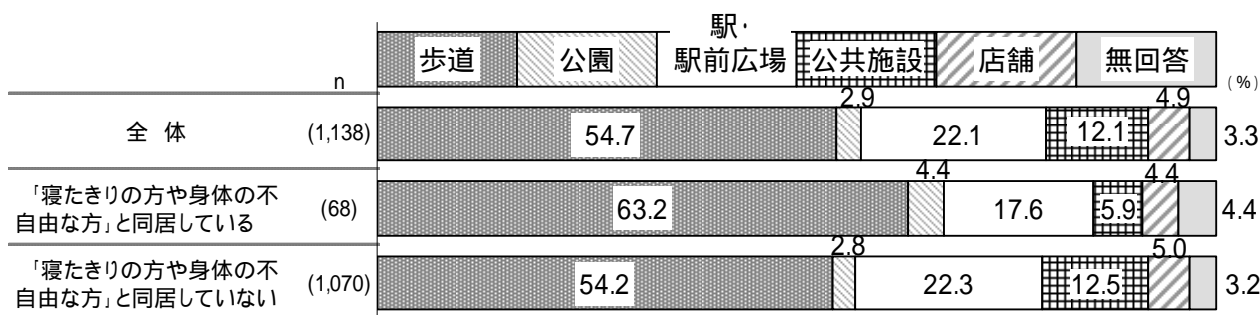
- 65歳以上の方との同居の有無別]



- ・ 65歳以上の方と同居している人で、最も高かったのは「歩道」の59.6%である。「歩道」は平均よりも+4.9ポイント高くなっている。

[バリアフリーの視点で進めるまちづくりに関して特に整備すべき場所

- 寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別]



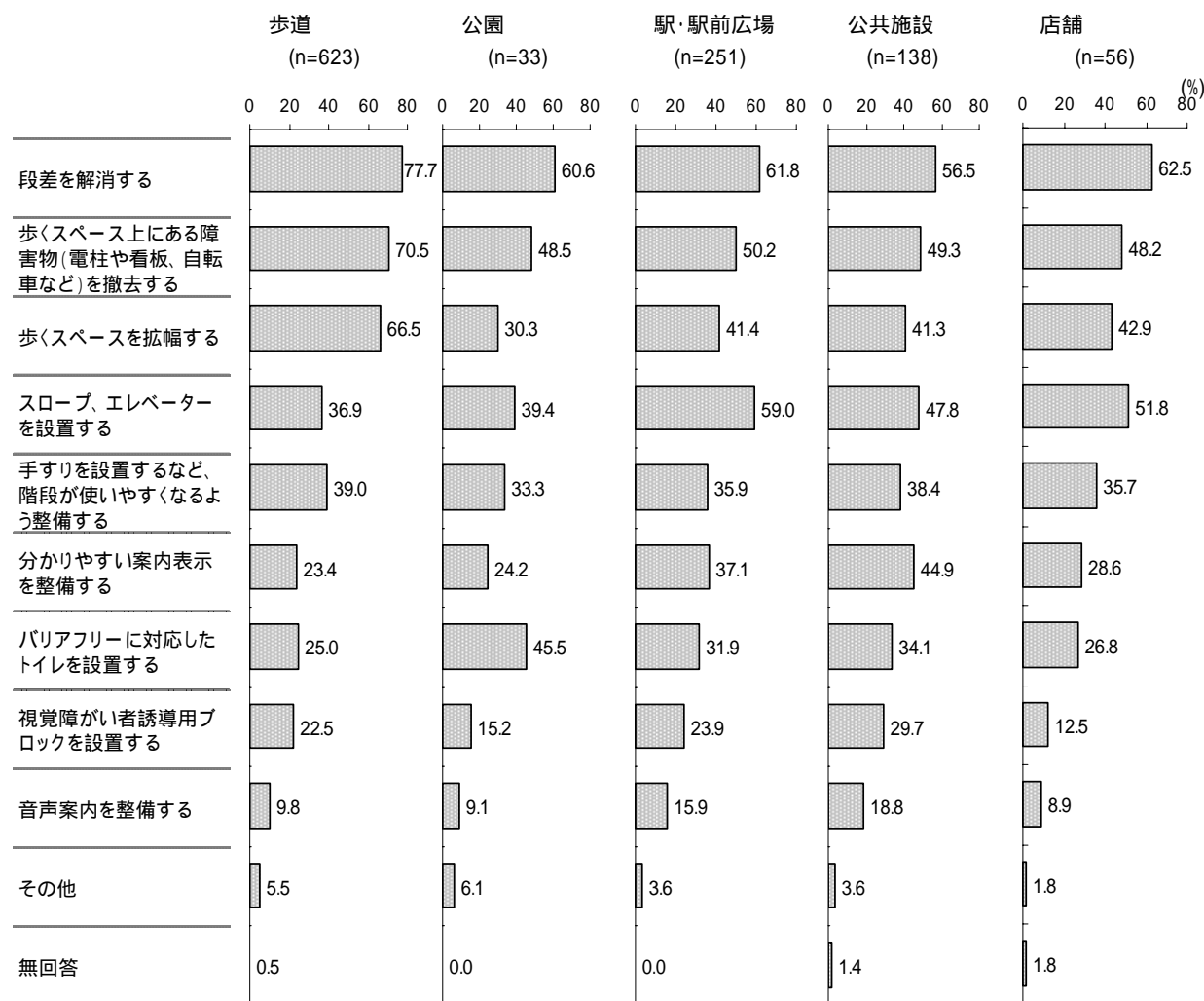
- ・ 寝たきりの方や身体の不自由な方と同居している人でも、最も高かったのは「歩道」であり63.2%を占めている。「歩道」は平均よりも+8.5ポイント高くなっている。

(5) バリアフリーの視点で進めるまちづくりに関して特に整備すべき場所で必要だ
 と思う取り組み

(全員の方に)

問 13-2 .問 13 で選んだ場所について、区としてどのような取り組みが必要だと思いますか。

(いくつでも)



- ・ 全場所で共通して最も高いのは、「段差を解消する」で5割半ば～7割半ばを占めている。
- ・ 公園では、「バリアフリーに対応したトイレを設置する」(45.5%)について、他の場所よりも高くなっている。
- ・ 駅・駅前広場では、「スロープ、エレベーターを設置する」(59.0%)が、他の場所よりも高くなっている。